A 型肝炎はどんな病気ですか

症状

２～７週間（平均４週間）の潜伏期間の後に、急な発熱、全身のだるさ、黄疸などが現れます。多くは数週間程度の入院が必要になります。一般に予後は良好で、慢性化することはありませんが、まれに劇症化することがあります。

成人は小児よりも所見や症状が現れやすく、高齢者では重症化しやすく死亡することもあります。

ウイルスは発症後数か月にわたり便中に排出されます。糞便中に排泄されたウイルスが伝播し、家族内に二次感染がおこることもあります。





日常の予防

調理の前、食事の前、トイレの後などには十分な手洗いを、また十分な加熱調理（85℃、１分以上）を心がけましょう。

A 型肝炎はワクチンで予防できます。流行国に渡航する場合は接種を検討しましょう。

また、海外では生水や生の食材などにウイルスが付着している可能性があるので、ミネラルウォーターや一度煮沸させた水、加熱調理した食べ物を選びましょう。







感染経路

主に糞口感染やウイルスに汚染された水や食品(野菜、果物、魚介類、生肉など)を食べることによる経口感染です。

最近では男性同士の性的接触での感染が多く報告されています。

二次感染予防

家庭内感染を防ぐために、患者の排泄物は適切に処理し、トイレ等は塩素系消毒薬などで消毒しましょう。

※　消毒用アルコールや逆性石けんはあまり効果がありません。



問い合わせ先

大阪市保健所感染症対策課

Tel　06-6647-0656

Fax　06-6647-1029